

伊予市家庭ごみに関する
市民アンケート調査結果報告書

令和6年3月

伊 予 市

伊予市家庭ごみに関する市民アンケート 調査結果

1. アンケートの目的

本アンケートは、将来のごみ処理広域化(可燃ごみ等を松山市の施設で一括処理すること)を見据え、指定ごみ袋のサイズ等に関する需要を把握し、今後の指定ごみ袋制度の検証及び更なる減量化施策に活かすことを目的としています。

2. アンケート調査概要

本アンケート調査の概要は表-1 のとおりです。

表-1 調査概要

項目	内容
調査対象	市内に在住する満 20 歳以上の市民(1,300 人)
実施方法	郵送配布・郵送回収による郵送調査法及び Web 調査
調査期間	令和 6 年 1 月 16 日 ~ 2 月 22 日
回収率	57.1 % (742 件/1,300 件)

3. アンケート調査結果詳細

Q1. 回答者ご自身のことについてお尋ねします。

1-1 居住地域を1つ選択してください。

1. 伊予地域
2. 双海地域
3. 中山地域

回答者の居住地域は、「伊予地域」が最も多く、全回答の80.1%を占めていました。これに次いで「中山地域」が11.5%、「双海地域」が8.1%でした。

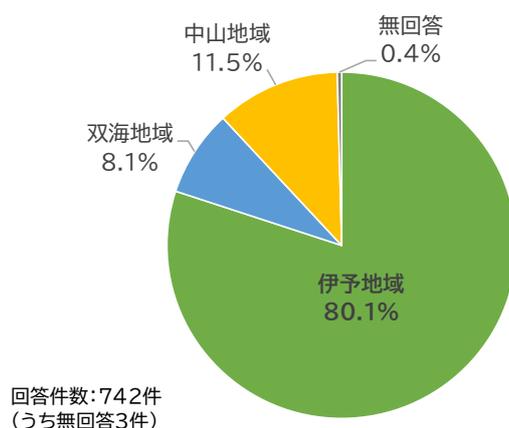


図-1 回答者の居住地域

1-2 お住まいのお家を1つ選択してください。

1. 一戸建て
2. 3階建て以下の集合住宅
3. 4階建て以上の集合住宅
4. 店舗や事務所と併用の住宅
5. その他の住宅

回答者の居住形態は、「一戸建て」が最も多く、全回答の86.5%を占めていました。これに次いで「3階建て以下の集合住宅」が6.1%、「4階建て以上の集合住宅」が4.7%でした。

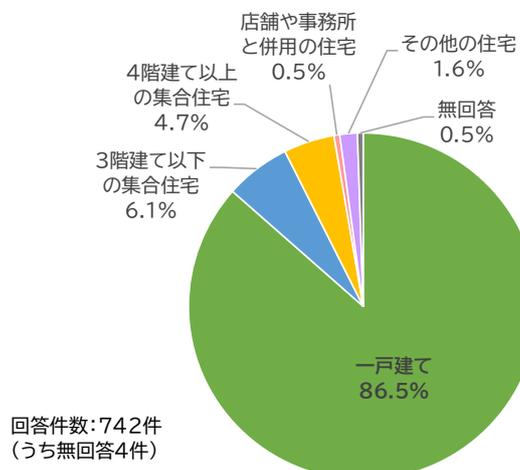


図-2 回答者の居住形態

1-3 回答者ご自身の年齢層(年代)を1つ選択してください。

1. 30代以下
2. 40代~50代
3. 60代~70代
4. 80代以上

回答者の年齢層は、「60代~70代」が最も多く、全回答の55.3%を占めていました。これに次いで「40代~50代」が29.6%、「30代以下」が10.0%でした。

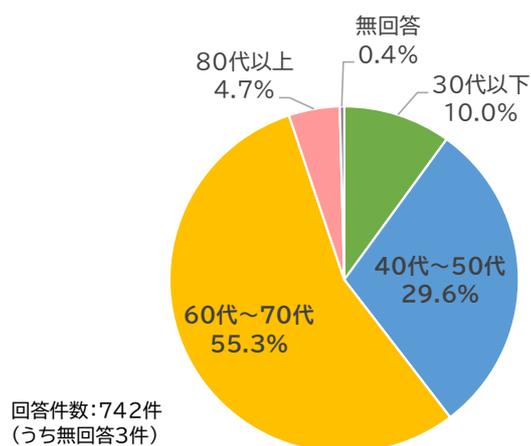


図-3 回答者の年齢層

1-4 世帯の人数を1つ選択してください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上

回答者の世帯の人数は、「2人」が最も多く、全回答の39.2%を占めていました。これに次いで「3人」が20.1%、「1人」が19.1%でした。

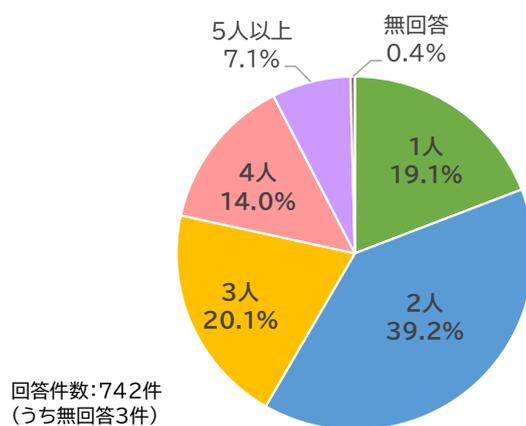


図-4 回答者の世帯人数

Q2. 可燃ごみの市指定ごみ袋についてお伺いします。

現在伊予市では、可燃ごみについて市指定ごみ袋を導入しています。市指定ごみ袋のサイズは大(45リットル)、中(30リットル)、小(20リットル)の3種類です。

2-1 一番よく使っている市指定ごみ袋のサイズを1つ選択してください。

1. 大(45リットル)
2. 中(30リットル)
3. 小(20リットル)

一番よく使っている市指定ごみ袋のサイズは、「大(45リットル)」及び「中(30リットル)」が同数で、それぞれ全回答の35.8%を占めていました。「小(20リットル)」は27.2%でした。

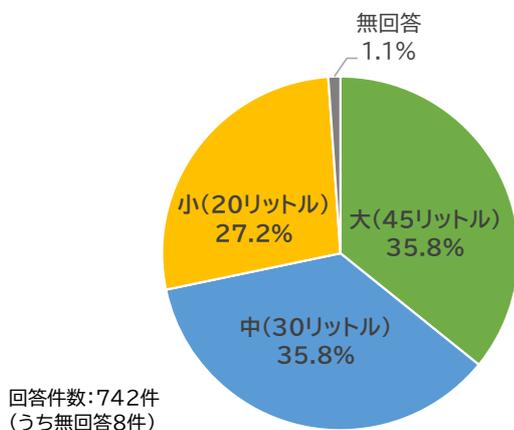


図-5 一番よく使っている市指定ごみ袋のサイズ

【地域別】 中山地域は、他の地域と比較して「大(45リットル)」の回答割合が多い傾向でした。
 【年齢層別】 年齢層が上がるにつれ、「大(45リットル)」の回答割合が少なくなる傾向でした。
 【世帯人数別】 世帯人数が増えるにつれ、「大(45リットル)」の回答割合が多くなる傾向でした。

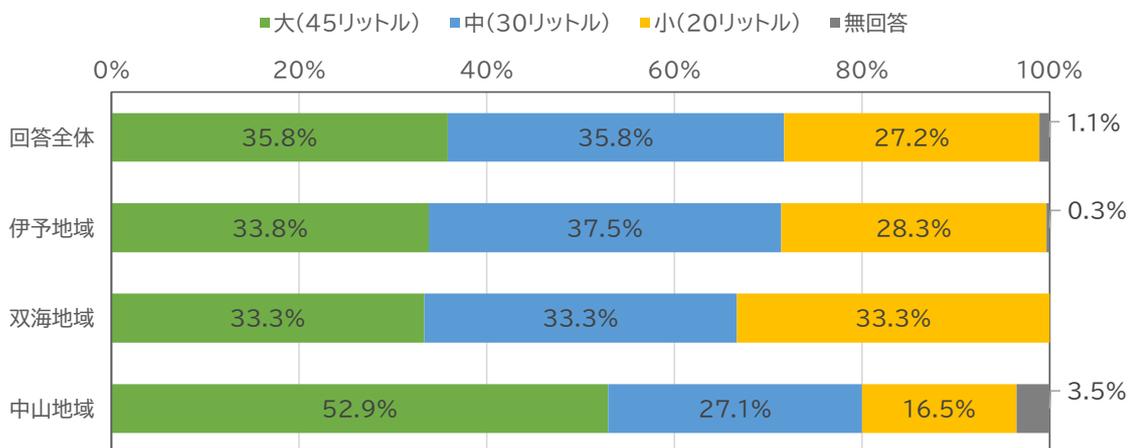


図-6 一番よく使っている市指定ごみ袋のサイズ【地域別】

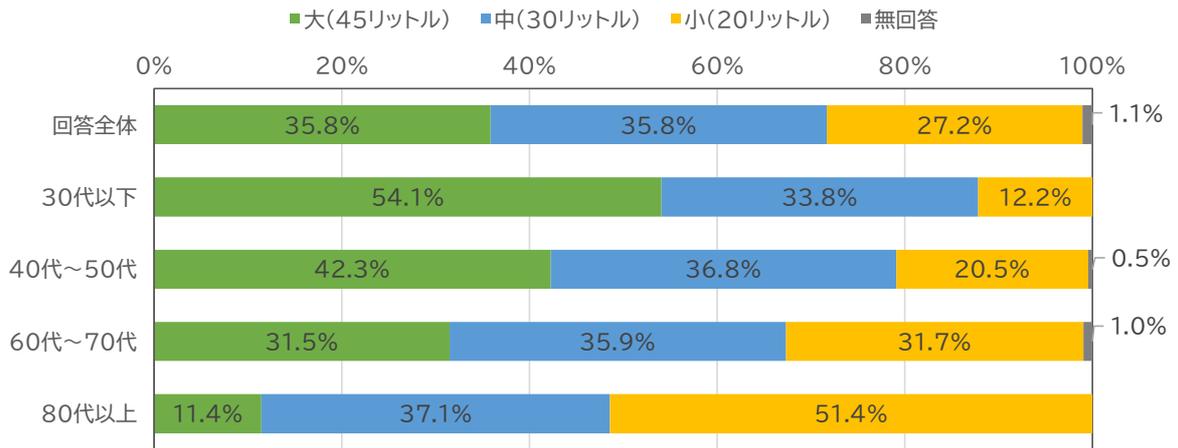


図-7 一番よく使っている市指定ごみ袋のサイズ【年齢層別】

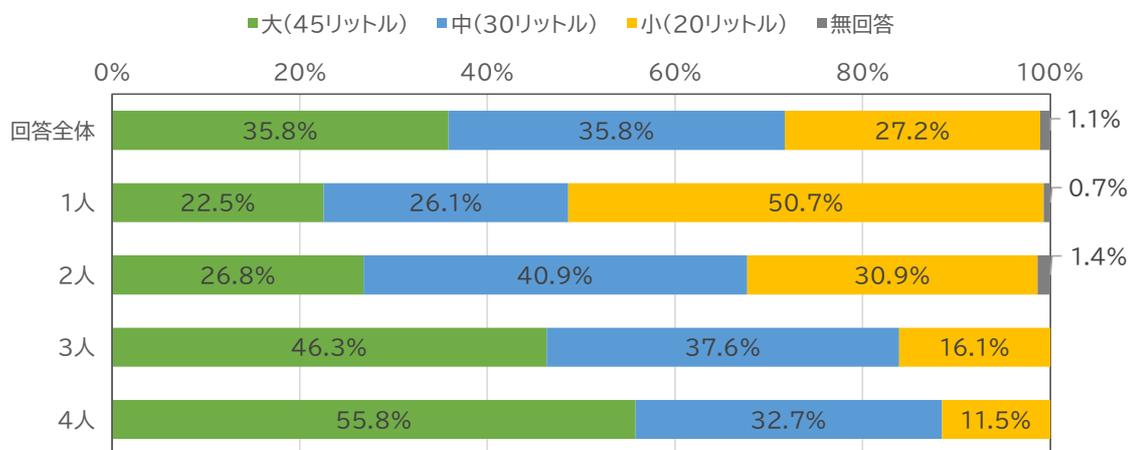


図-8 一番よく使っている市指定ごみ袋のサイズ【世帯人数別】

2-2 可燃ごみを出す頻度を1つ選択してください。

1. 週2回
2. 週1回
3. 月2~3回
4. 月1回以下

可燃ごみを出す頻度は、「週2回」が最も多く、全回答の64.2%を占めていました。これに次いで「週1回」が24.5%、「月2~3回」が8.4%でした。

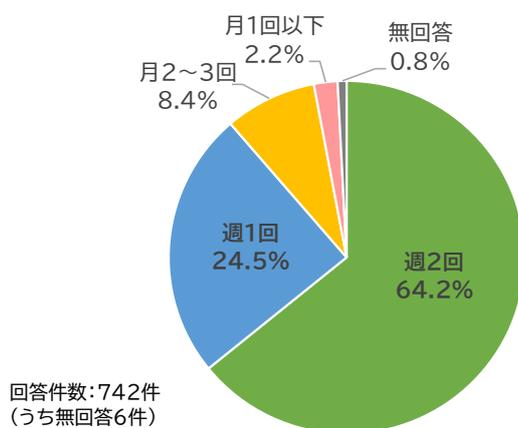


図-9 可燃ごみを出す頻度

【地域別】 中山地域は、他の地域と比較してごみを出す頻度が少ない傾向でした。
 【年齢層別】 年齢層が上がるにつれ、ごみを出す頻度が少なくなる傾向でした。
 【世帯人数別】 世帯人数が1人及び2人の世帯は、ごみを出す頻度が少ない傾向でした。

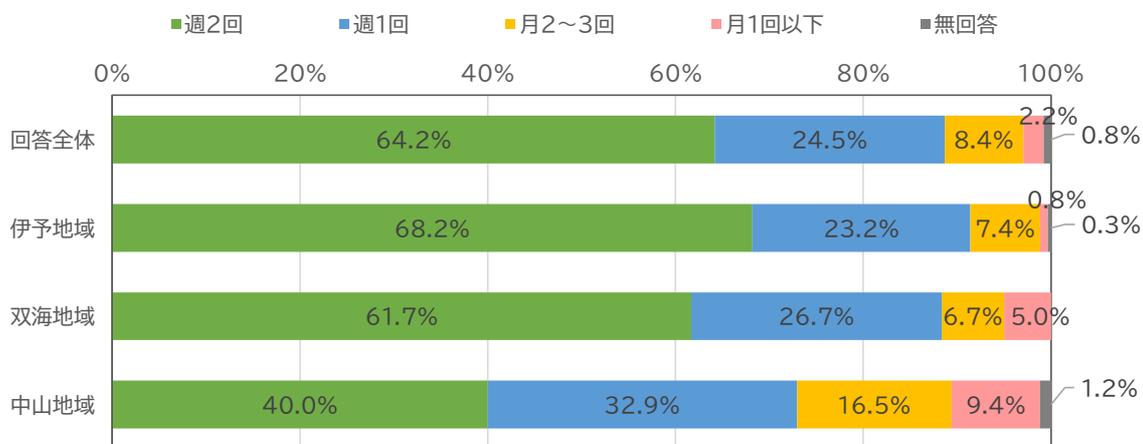


図-10 可燃ごみを出す頻度【地域別】

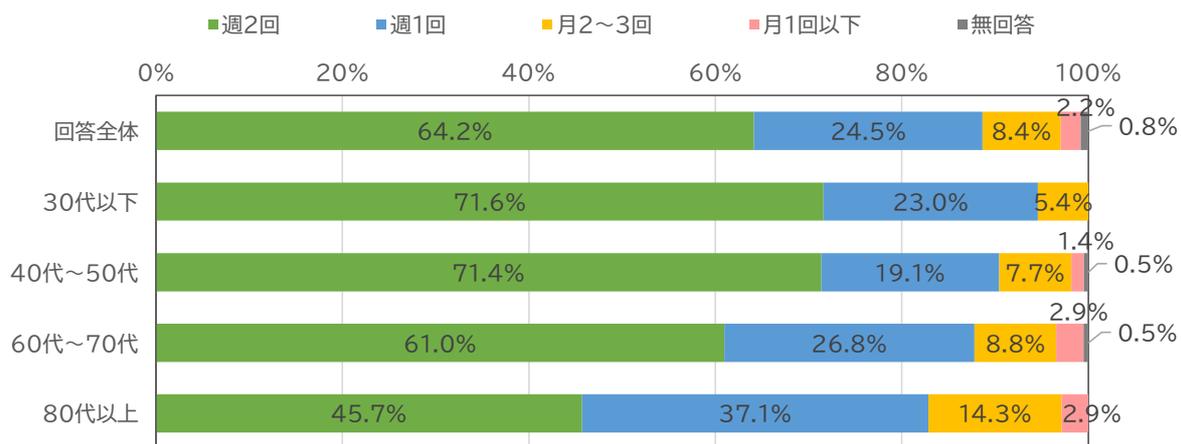


図-11 可燃ごみを出す頻度【年齢層別】

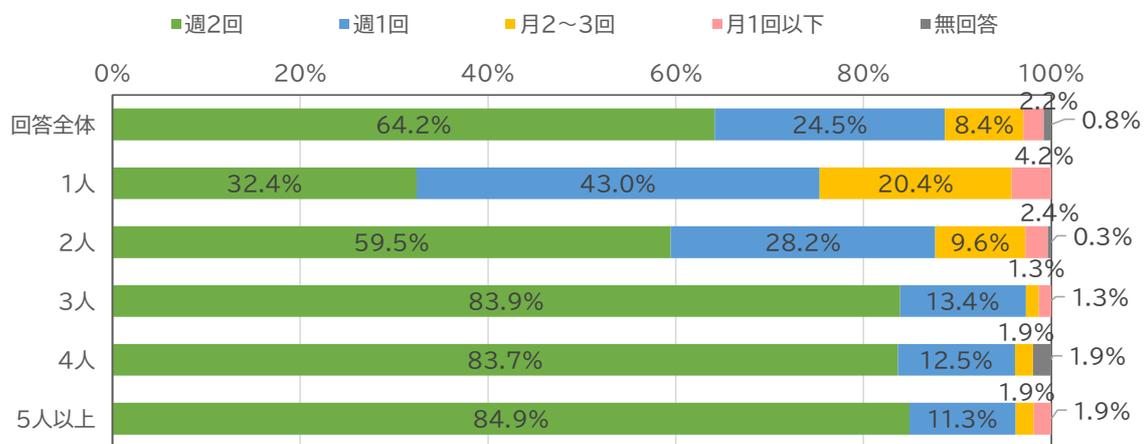


図-12 可燃ごみを出す頻度【世帯人数別】

2-3 サイズに関係なく、市指定ごみ袋を1か月(4週間)で何枚程度使用しているか 1 つ選択してください。

1. 0~3枚
2. 4~6枚
3. 7~9枚
4. 10~12枚
5. 13枚以上

市指定ごみ袋の1か月(4週間)の使用枚数は、「7~9枚」が最も多く、全回答の 46.6%を占めていました。

これに次いで「4~6枚」が 29.6%、「0~3枚」が 13.5%でした。

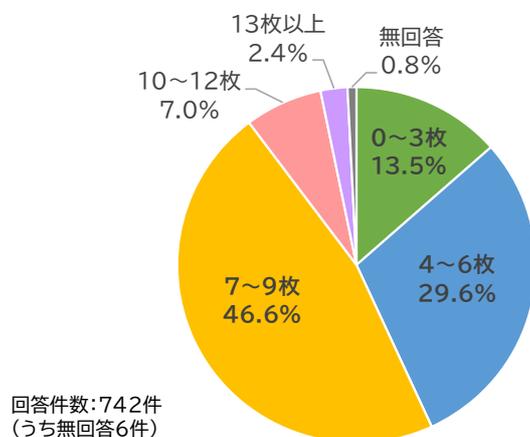


図-13 市指定ごみ袋の1か月(4週間)の使用枚数

【地域別】 中山地域は、他の地域と比較してごみ袋の使用枚数が少ない傾向でした。

【年齢層別】 80代以上は、他の年齢層と比較してごみ袋の使用枚数が少ない傾向でした。

【世帯人数別】 世帯人数が1人及び2人の世帯は、ごみ袋の使用枚数が少ない傾向でした。

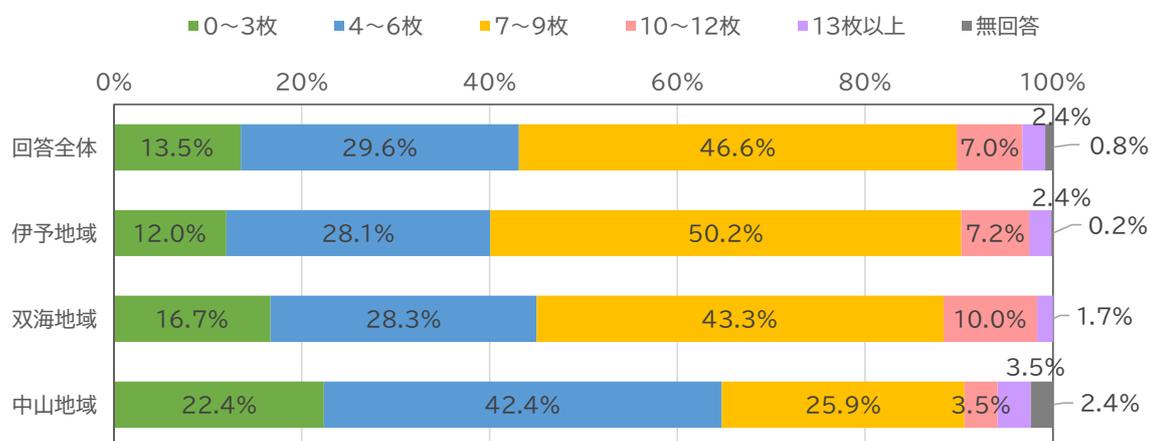


図-14 市指定ごみ袋の1か月(4週間)の使用枚数【地域別】

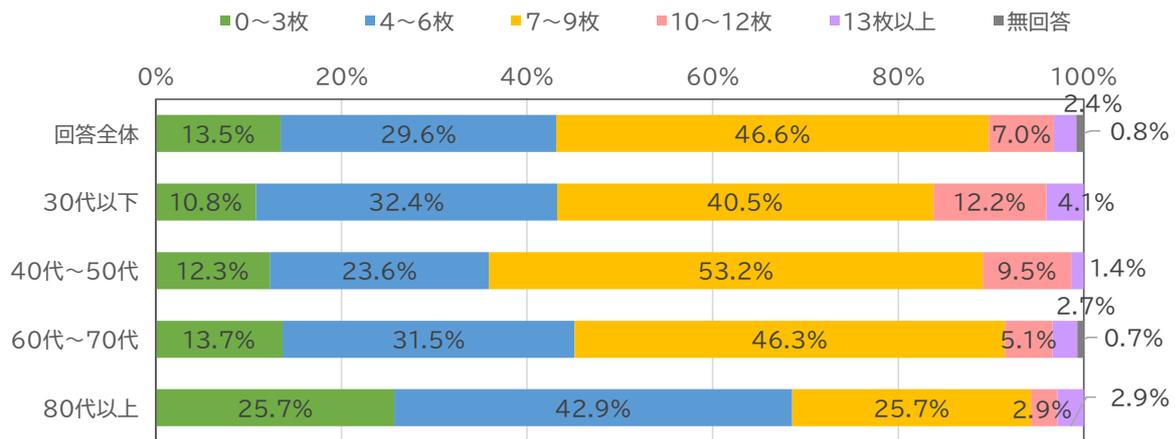


図-15 市指定ごみ袋の1か月(4週間)の使用枚数【年齢層別】

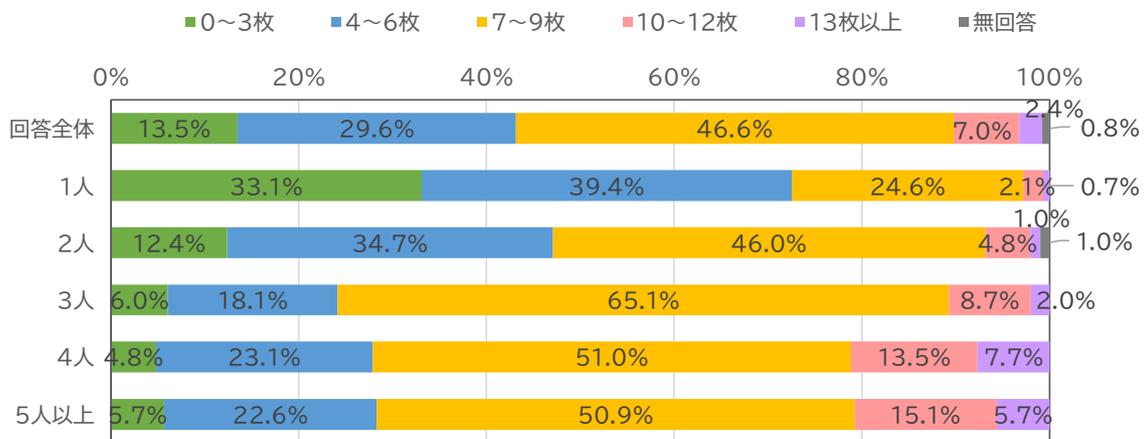


図-16 市指定ごみ袋の1か月(4週間)の使用枚数【世帯人数別】

2-4 市指定ごみ袋について、現在のサイズ以外に要望するサイズはありますか。

(複数回答可)

1. 価格が上がっても、もっと大きいサイズが必要
2. 価格が上がっても、もっと小さいサイズが必要
3. 今のサイズで良い

市指定ごみ袋について、現在のサイズ以外に要望するサイズは、「今のサイズで良い」が最も多く、全回答の93.0%を占めていました。

これに次いで「価格が上がっても、もっと大きいサイズが必要」が3.8%、「価格が上がっても、もっと小さいサイズが必要」が2.0%でした。

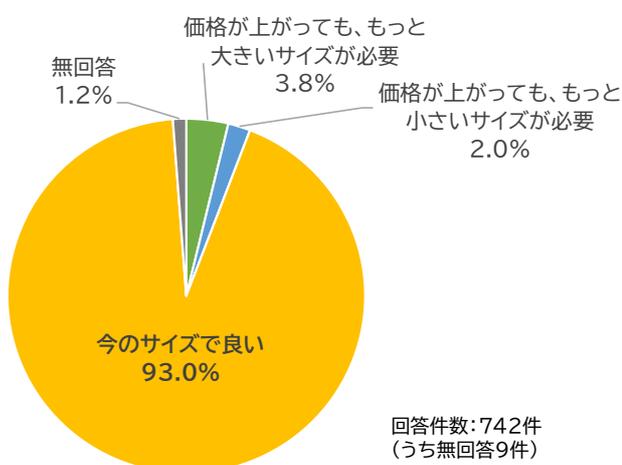


図-17 現在のサイズ以外に要望するサイズ

【地域別】 地域による大きな違いはありませんでした。

【年齢層別】 年齢層による大きな違いはありませんでした。

【世帯人数別】 世帯人数による大きな違いはありませんでした。

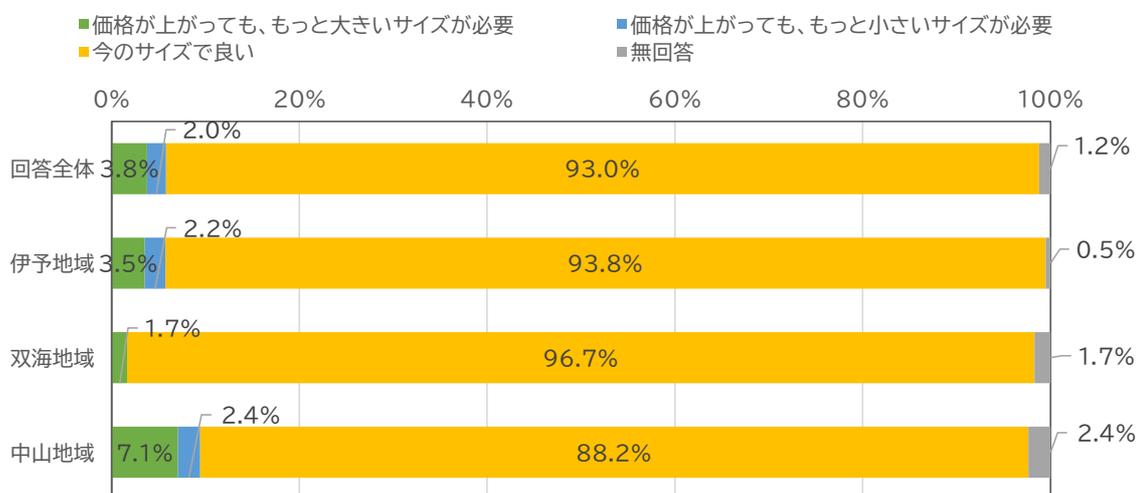


図-18 現在のサイズ以外に要望するサイズ【地域別】

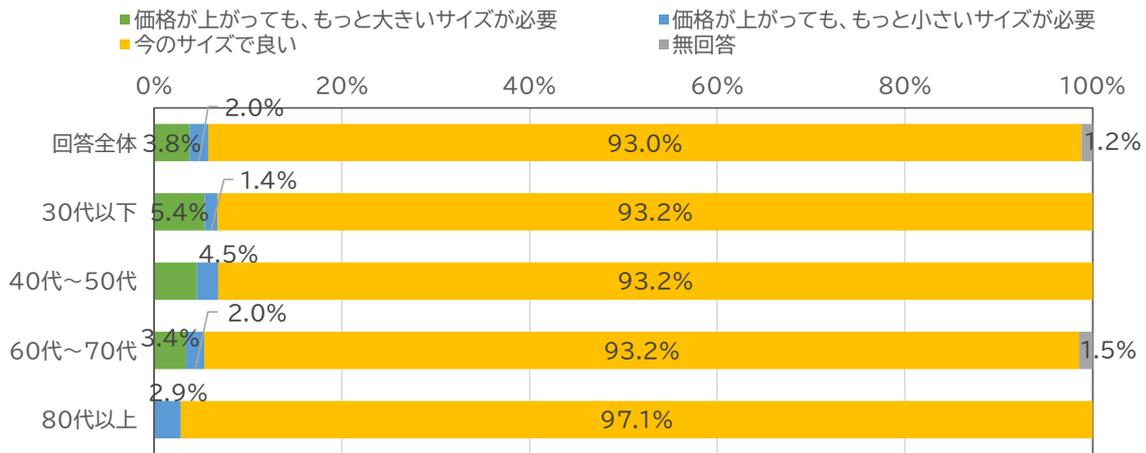


図-19 現在のサイズ以外に要望するサイズ【年齢層別】

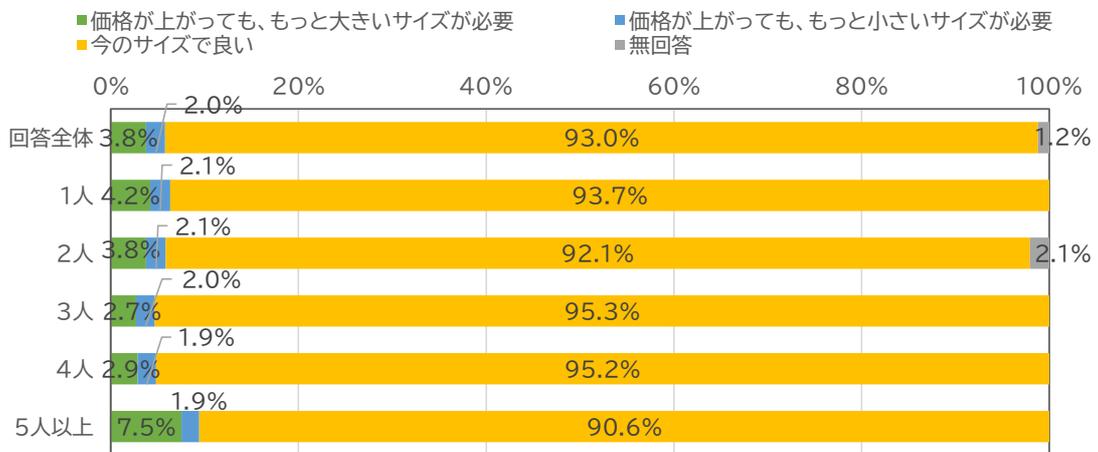


図-20 現在のサイズ以外に要望するサイズ【世帯人数別】

2-5 【2-4】で1・2を選択された方に質問です。どのようなサイズが必要か記入してください。

表-2 「1. 価格が上がっても、もっと大きいサイズが必要」を選択した方の主な回答

回答内容
・70リットル(6件) ・60リットル(4件)
その他、「大の1.5倍」、「90リットル」、「布団が捨てられるぐらいの大きさ」、「30リットル→35リットル、20リットル→25リットル」 など

表-3 「2. 価格が上がっても、もっと小さいサイズが必要」を選択した方の主な回答

回答内容
・10リットル(7件) ・小より小さいサイズ(3件)
その他、「大と中の間」、「価格据置き(または1パック当たりの袋の数を増やす)で、もっと小さいサイズがほしい」 など

3-2 伊予市が実施している一般家庭用の生ごみ処理容器及び電気式生ごみ処理機の購入補助金について当てはまる番号を選択してください。(複数回答可)

1. まったく知らなかった、知っていたが興味がなかった
2. 補助金の申請を検討している
3. 補助金を申請したことがある
4. 補助額を高くしてほしい
5. 補助金を廃止した方がよい
6. その他 ()

一般家庭用の生ごみ処理容器及び電気式生ごみ処理機の購入補助金について、「まったく知らなかった、知っていたが興味がなかった」が最も多く、582件の回答がありました。

これに次いで「補助額を高くしてほしい」が70件、「補助金の申請を検討している」が37件でした。

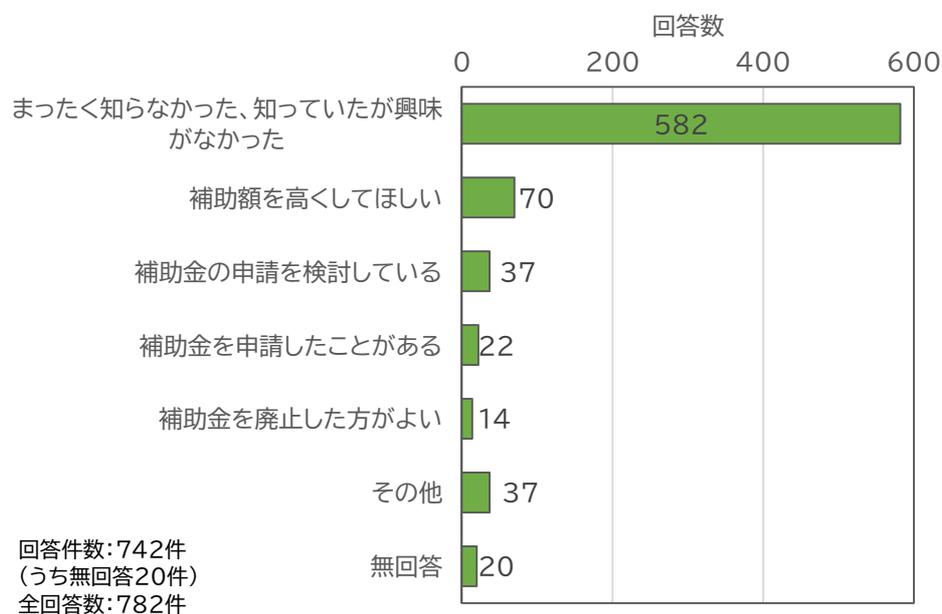


図-22 一般家庭用の生ごみ処理容器及び電気式生ごみ処理機の購入補助金について

表-5 「6. その他」を選択した方の主な回答

回答内容
<ul style="list-style-type: none"> ・電気式生ごみ処理機は高価で、購入補助金を少し高くしても買えない ・各家庭で適切な処理をするべきであると思う ・設置場所がない ・昨今電気代の値上がりから、電気式生ごみ処理機の電気代が気になる ・商品の説明があれば使ってみたい など

Q4. ごみ処理負担について

市指定ごみ袋大サイズ1袋あたりのごみ処理費用は270円です。そのうち230円は税金等で、残り40円はごみを出す人が購入する市指定ごみ袋の代金をあてています。負担の割合について一番近い考えを1つ選択してください。

1. 現状のままで良い
2. ごみを出す人の負担率を上げるべき(指定ごみ袋の販売金額を上げる)
3. ごみを出す人の負担率を下げるべき(指定ごみ袋の販売金額を下げる)

市指定ごみ袋の負担の割合については、「現状のままで良い」が最も多く、全回答の 72.1%を占めていました。

これに次いで「ごみを出す人の負担率を下げるべき」が 19.5%、「ごみを出す人の負担率を上げるべき」が 7.0%でした。

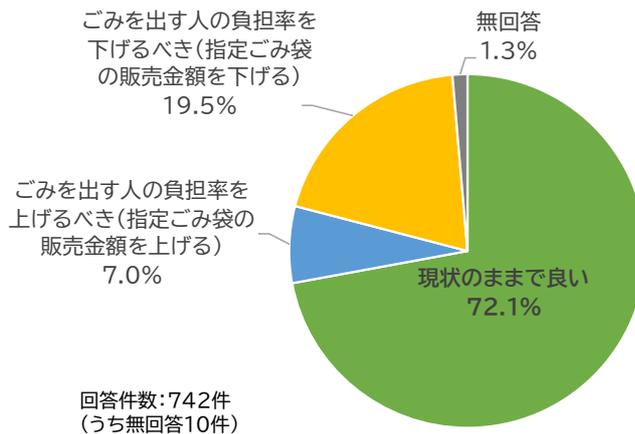


図-23 負担の割合について

【地域別】 地域による大きな違いはありませんでした。

【年齢層別】 年齢層が若くなるにつれ、「ごみを出す人の負担率を下げるべき」の回答割合が多くなる傾向でした。

【世帯人数別】 世帯人数が増えるにつれ、「ごみを出す人の負担率を下げるべき」の回答割合が概ね多くなる傾向でした。

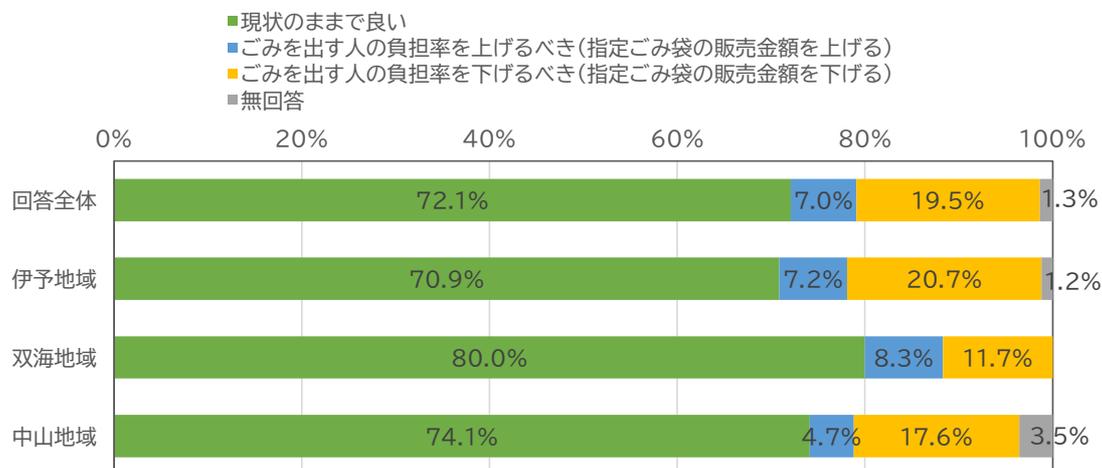


図-24 負担の割合について【地域別】

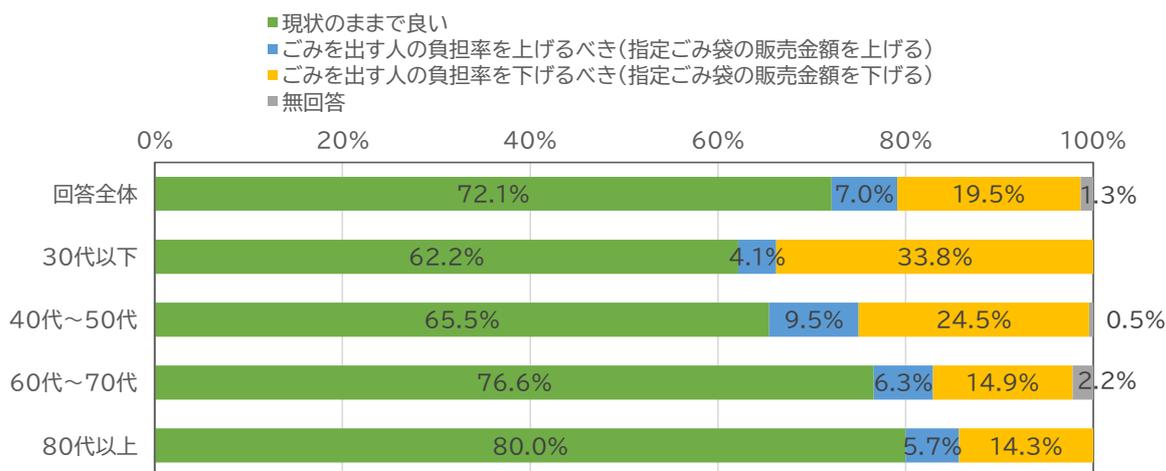


図-25 負担の割合について【年齢層別】

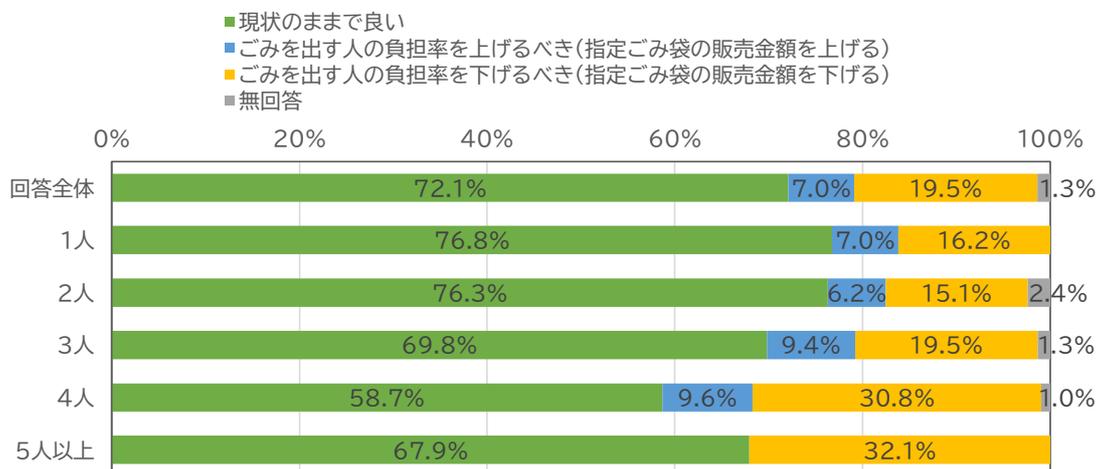


図-26 負担の割合について【世帯人数別】

4. アンケート調査結果のまとめ

アンケート調査結果のまとめは表-6 のとおりです。

市指定のごみ袋のサイズについては、9割以上の方が「今のサイズで良い」と考えている結果となりました。

家庭でのごみの減量の取組については、半数以上の方が、生ごみの水切り等に取り組んでいただいております。市民の皆さまの高い意識がうかがえました。

一方、一般家庭用の生ごみ処理容器及び電気式生ごみ処理機の購入補助金については、「まったく知らなかった、知っていたが興味がなかった」が特に多く、今後、補助金等の情報提供や普及啓発の方法について検討が必要と考えられます。

市指定ごみ袋の負担の割合については、72.1%の方が「現状のままで良い」と回答しましたが、「ごみを出す人の負担率を下げるべき(指定ごみ袋の販売金額を下げる)」との回答も 19.5%あり、2割程度の方が「ごみを出す人の負担率を下げるべき」と考えている結果となりました。

この結果を受け、市指定ごみ袋制度は、当面の間は現状維持が望ましいと考えておりますが、将来的な課題として、独居や高齢世帯の増加に対応した施策も検討するなど、今後も市民ニーズに注視し、社会変化に柔軟に対応するとともに、情報発信、啓発活動の強化を図り、市民の皆さまにとってより良いごみ処理施策を展開してまいります。

表-6 アンケート調査結果のまとめ

項目	設 問	回答上位
可燃ごみの市指定ごみ袋について	一番よく使っている市指定ごみ袋のサイズ	大(45リットル):35.8% 中(30リットル):35.8% 小(20リットル):27.2%
	可燃ごみを出す頻度	週2回:35.8% 週1回:24.5% 月2~3回:27.2%
	市指定ごみ袋の1か月(4週間)の使用枚数	7~9枚:46.6% 4~6枚:29.6% 0~3枚:13.5%
	現在のサイズ以外に要望するサイズ	今のサイズで良い:93.0% もっと大きいサイズが必要:3.8% もっと小さいサイズが必要:2.0%
ごみの減量について	ごみの量を減らすために取り組んでいること	生ごみの水切り:495件 食べ物を買すぎない、食べ残しをしない:477件 過剰包装の商品を避ける:192件
	一般家庭用の生ごみ処理容器及び電気式生ごみ処理機の購入補助金について	まったく知らなかった、知っていたが興味がなかった:582件 補助額を高くしてほしい:70件 補助金の申請を検討している:37件
ごみ処理負担について	市指定ごみ袋の負担の割合について	現状のままで良い:72.1% ごみを出す人の負担率を下げるべき:19.5% ごみを出す人の負担率を上げるべき:7.0%